

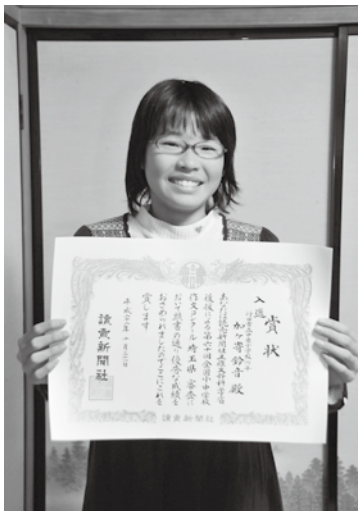
いきいき 衍田人

家庭の料理を題材にした作文で
全国小・中学校作文コンクール入選

加ケ寄 鈴音さん（11歳・宮本）

今回は、家庭に受け継がれる「フライ」が家族の幸せにつながっていると作文で「第60回全国小・中学校作文コンクール」の埼玉県審査（以下「コンクール」）に入選した加ケ寄鈴音さんを紹介します。

幼いころ病気がちで入院を繰り返していた加ケ寄さんですが、管理栄養士の資格を持つお母さんの栄養のバランスを考えた料理で、今では元気いっぱい。どんな料理もおいしくて、加ケ寄家の食卓はいつも会話が弾んでいるそうです。そんな自慢のお母さんが唯一作らない料理がフライ。それは昔、たばこ屋を営みながらフライを売っていた曾祖母の味を受け継いでいるお父さんの料理だからです。「お父さんのフライはとてもおいしいんです」曾祖母のことや子どもころのことなど、思い出話をしながらフライを焼くお父さんは、加ケ寄さんにとってもう一つの自慢だそうで



す。

そんな加ケ寄さんが、家族のこと、そして家庭の料理について作文を書いたのは、「浮き城のまち行田少年の主張大会」に向けた作文が、夏休みの課題として出されたからでした。昨年いとこが同大会に出場した姿を見て「私も壇上に立って発表してみたい」と思っていた加ケ寄さんは、自分の誇れるものである「家庭に伝わるフライ」のことを題材に書くこと決めました。父が焼くフライが、曾祖母の生きた過去と自分の生きている今をつないでくれているかけがえのない料理であると、思いつくまま感じたことを書きました。選考の結果、惜しくも同大会出場への切符を手にすることはできませんでしたが、よく書いているのだからと先生がコンクールへ応募した加ケ寄さんの作文は、なんと小学校高学年の部で入選。同大会に出場できずがっかりしていた加ケ寄さんも、新聞社からの連絡を受け「こんなことになるとは思っていませんでした。とてもうれしい」と、友達や知り合いから祝福のメッセージを受けてにっこりとほほ笑んでいます。

「今はまだフライを焼く父の姿を見ているだけけれど、将来この伝統の味を教えてもらい、自分の子供にも伝えていきたい」と語る加ケ寄さん。加ケ寄家の食卓には、おいしい料理と家族の笑顔が今日も並んでいます。

私の作品

俳句

◎皆さんの作品を募集しています。
◎俳句は毎月5日までにはがき・封書で広報広聴課へ応募ください。

城西 橋本まさ子
デコポンの大玉たわわ秋高し

長野 内山 計江

霜降は風だけが知る予感かな

酒巻 風間ちま子

背を丸め野菜と話し秋惜しむ

荒木 島田 香子

秋澄みて水路の木の葉くるくると

須加 原 ちか子

癒されし金木犀のかおる路

富士見町 本間千代子

コスモスや風の気まぐれみぎひだり

城南 町田ツギ子

晩秋の散歩いつしかいそぎ足

城南 関口 操

吊橋や肩すり合って紅葉狩

北河原 石川千恵子

道端の咲くコスモスに足止める

渡柳 長森 イセ

秋の空三日月残る青い空

矢場 長島あつ子
秋晴れに兜の被布の宮参り

持田 田子 敏枝

秋風をペダル踏みでは戯れり

前谷 石井マサ子

身じまいし色なき風に背をおされ

佐間 須永 節子

今日無事とありて独りの小春かな

南河原 細井喜美江

大利根の風の意のまま枯れすすき

(木島 斗川 監修)



『白川郷』（押し花）
新井 登美子（壺里山町）